

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書に明記しており玄関に掲示してある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念だけ大きく書き出し常に職員の目の届く所に表示している。 朝礼時、職員全員で唱和している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に額に入れて掲示している。家族へは契約書、重要事項説明書により説明し理解していただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に解放し自由に見学を実施している。また散歩時に利用者の方から挨拶されたり近所の方にも声を掛けて下さったり、お花や作物を頂くこともあり近くの診療所では知人に会うと昔話ではずんでいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りには参加見学しており、当園に幼稚園の子どもさんが慰問に来られます。		当園のイベントを開催したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域社会に役立つ事の一つとして「車椅子助成の缶タブ集め」をやっている。散歩時、道路の空き缶を拾いながら歩いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘された改善点は留意して対応している。		月間行事予定表、行事の準備等、入所者と共にグループワークの一環として引き続きやっていく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回位の割合で実施している。地域から当園についての要望も伺いそれに添うよう心掛けている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	出来ていない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されておられる利用者が一名おられ、それを機に職員間で学ぶ機会をもった。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同研修で学びました。日常の介護業務の中でも些細な言葉、声かけや態度にも注意を払い職員同士話し合いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時前に当園に見学され説明して理解して頂いている。又、ご家族様には来園面会時を利用して苦情、疑問ががないかお尋ねしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の中で常に利用者の声に耳を傾けカンファレンスや日々の申し送りで見聞の交換を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>近況、健康状態については連絡事項があるときは必ず一言申し添えるようにしている。園全体の動きについては成寿園の広報誌を毎月お送りしている。特変がある時は必ず家族に連絡している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を玄関、各階に設置し、アンケート用紙を作成し記入していただいたものを収集しいけんを検討するようにしている。又面会時や連絡時にご要望を聞く様にしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の運営者の訪問があり、現場の様子を視察して現場の意見を訊く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は、利用者の受診状態等を考慮して勤務を作成している。特変がある場合には、話し合いをして勤務変更をしたりしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>4ヶ月に1回、2階、3階の職員のローテーションを替え2、3階どの利用者とも馴染みのある関係が構築できるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	合同研修会を行っている。		法人本部で月に一度、個人研修を受け付けている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の事業所とは頻りに交流しているが他法人の事業所との交流は出来ていない。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リフレッシュ休暇、希望休等を取り入れている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員によって個人差があり職員の個性の良いところを発揮出来るようにしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、利用者と面接し本人との対話の中から困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴き取るようにしている。入所当初は十分に声掛けをする。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にグループホームを見学して頂き、家族等の疑問や不安・ニーズ等を掴むようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームのみならず特養、老健の入所も視野に入れて本人に適したサービス、家族からの要望も取り入れるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にホームの見学や自宅訪問で本人や家族の意見を聞きながら、徐々に利用者が安心して生活できるよう一人一人にあった方法で馴染めるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の介護はさせてもらっているが、精神面では学ぶことができ、感謝の気持ちや考え方に感化されています。		職員の力量に個人差がありますが常に理念に基づき精進していきたいと思っています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を良く伺ってそれに添って日常の声かけや生活を行うよう心掛けています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日常生活、行事の写真を階段の踊り場に掲示し、ご家族に自由に持って帰って頂いている。		一筆短文のお便りや書けない方は自分のお名前だけの直筆等をスナップと一緒にご家族に郵送する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	島内の方は受診時、馴染みの方との言葉かけ、島外の方は面会時、ドライブを兼ねての外出や近くの散歩をご一緒にお勧めしている。		入所者が気にかかっている家や墓や畑に外出時、ご家族に連れて行って頂くよう話し合っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の交流が出来るよう、認知症の程度やADLの具合を考慮して席を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	連絡があれば相談にのっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの立案時、必ず本人の希望を聞くようにし反映させている。		家族来園時、ゆっくり話を聞くようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに力を入れ本人の生活を把握するようにしている。		同上
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々発する言葉、行動、身体の状態等に記入し職員間で情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りやケア・カンファレンスで意見を求めプランに生かした介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度評価(モニタリング)を行い見直しを図っている。また随時チョットカンファレンスや毎朝、朝礼時の気づきで状態変化に即した計画変更をしている。		月に2回の割合でカンファレンス又は毎朝、朝礼で報告する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース日誌に毎日記録している。		状況のみならず入居者の表情、感情や言葉についても記入するようにし、それを生かすようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム、特養、老健、ショートステイ等ご家族とご本人の希望にあてはまる支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方から情報を得たり、ボランティアの慰問を受けている。火災訓練には消防署にも参加して頂いている。		最近、中学生の体験学習がないが又来て入所者と触れ合って頂きたい。幼稚園の園児さんが慰問に来て利用者と触れ合ってください。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	靴や杖等の福祉用具の購入について地域のケアマネジャーと話し合っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと相談して、権利者擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントが出来るようにしている。		経由して入所された方は、センターの方々も折に触れ様子を見に来られる。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の協力病院と連携している。必要に応じ専門医への受診もDr.家族と相談している。		利用者に異変があれば、電話にてDr.に相談して家族に報告している。

グループホーム大浜 あび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同上		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している老健の看護師や薬剤師に特変があれば相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	受診時、家族も含め主治医とカンファレンスを行い本人、家族の希望を取り入れたターミナルケアについて話し合っている。その結果や方針について職員に周知している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化や緊急時の対応、体制、連絡方法についても話し合い準備している。		心配蘇生法の講習を全職員にしたい。(現在一部の職員はAEDの講習をうけている。)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	その都度、本人と家族に同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけ、対応に不適切があれば、その場で注意を促すようにしている。記録等は関係者以外に公表していない。</p>	<p>押しつけではなく選択や尊厳を守れるよう声かけの工夫、職員の意識の向上を図りたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の会話の中から思いや希望を聞きだしている。</p>	<p>介護者本位にならず本人の潜在能力を引き出せるような(待つ支援)を心掛けている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の時間軸は決まっているが本人の意思を聞き決して無理強いせず本人の意思を尊重している。</p>	<p>職員の意識の徹底を図ると共に職員のレベルアップに努めたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望があれば理容、美容院を利用している。</p>	<p>月に一度外部から散髪をしに来られる</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの嗜好は十分に充たされないが、調理の手洗い盛り付け、テーブル拭き、箸並べ、茶碗拭き等をその方の出来る能力に応じて手伝って頂き、食事が楽しみなものになるよう工夫している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつコーヒー等を出しており、散歩時、受診時、外出時本人の好みのものを買っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットやリハパンに頼らず定時のトイレ誘導を行っている。		排泄パターンの周知の為24時間対応のチェック表を作り活用している。又失禁の多い方は1時間から2時間のトイレ誘導に心掛けている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表で曜日や時間帯の変更はできるが職員体制上、夜間は難しい。		希望のある方毎日でも、又必要であれば適宜シャワー浴もおこなっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	テレビを見たり、ソファーでくつろいだりして頂いている。又エアコンや寝衣の調整で入眠しやすい環境に心掛けている。		状況によっては湯たんぽの利用で喜ばれている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月、季節行事をとり入れたり、利用者個々の能力を生かし手伝いをして頂く。(調理、洗い物、テーブル拭き、茶碗拭き等)		おやつ作り、お好み焼き、たこ焼き、みなさんで仕事を分担して作ってくださる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員がしているが、買い物ツアーでお金を使う喜び、選択する楽しみや機会を作っている。		お金を自分で管理できる方は持っておられ、受診時に近くのお店で買い物をされます。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調と天候の許す限り、毎月の散歩は日課としている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月のうち何度かドライブ、買い物ツアーまた家族の来園時には外出自由でご家族と共にドライブや軽食、墓参りをされており。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが手紙を書くことは難しいですが、本人が電話の希望があればご家族に相談してかけます。		文章は無理で名前だけしか書けない方が多いのですがグループワークを利用して文字を書いて頂いています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室にて誰にも邪魔されず存分に会話を楽しんで頂くよう配慮している。		家族、知人、友人等馴染みの人と居室にて食事をされるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており、取り組んでいる。但しケアカンファレンスにおいて安全上必要な場合は、ご家族の同意を得て夜間のみ転落防止の為、柵を使うこともある。		その場合も随時、カンファレンスして継続か否かを検討している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室を使用されている時は業務をしながら常に注意を払い安全を確認している。夜間は2時間毎、要観察の場合は随時巡室している。		夜間、コールの位置、コールの分からない方には利用者の目の届く所に分かるよう工夫している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症判断力低下の方が居る為、利用者の共同スペースには、危険な物は置かないようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関する情報を共有し「ヒヤリはっと」の記録をして再発を防ぐ為の検討と対応を協議、実践している。		体操、ストレッチ運動をして下肢筋肉低下防止、転倒防止に努めている。誤薬に関しては3度名前確認をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日常の業務の中で指導に当たっている。		職員研修をして取り組んでいる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練をしている。朝礼時に火災発報の唱和をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の来園時、現在の状況を説明し、この方のリスクも説明、それを防ぐ為に職員でどう取り組みをしているか話し理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝礼時の報告やバイタル、顔色、様子の変化から体調を把握し、共有し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や申し送りにより職員に周知するようにしている。不明の場合は薬処方箋で確認する。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日便秘状況を確認し、水分補給と散歩、運動等に努めている。		薬に頼りすぎず牛乳、みかん、その他繊維質の食物を摂るようにしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来る方は自分で義歯をはずして洗って頂く、出来ない方は職員がついて介助する。夜間のみ義歯を預かりポリドント洗浄する。		義歯の有無にかかわらず歯茎や舌苔のブラッシングの徹底を職員に図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量のチェックをして食欲を測り低下の方には栄養補助を検討、嚥下困難な方にはトロメリン対応、ミキサー食、ゼリー、粥で対応、水分補給は充分に気をつけている。		水分補給量を知る取り組みをする。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり実行し予防に努めている。		散歩、外出し帰園での手洗いうがいを実行する。天気の良い日には布団干し寒くても空気の入替えトイレ、手すりの消毒。食事の前の手の消毒を徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、フキンの消毒適宜、冷蔵庫、食品庫の消毒清掃。利用者、職員の手洗いの徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は日中開放している。段差を無くす為、特注のスロープをつけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に障子を貼り柔らかな光で利用者を和ませている。又、草花を活けて季節感を感じるようにしている。		ゆず湯、菖蒲湯等、織り交ぜて季節、風習を味わって頂く。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーや食堂にソファを置き思い思いにくつろいで頂ける空間を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具は少ないが、写真や自分で作った陶芸作品やリース等を飾っている。		家族と相談して暖かみのある居室にしたいと思っている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一部屋ごとに、こまめに空調は調節できるようになっている。また網戸を配し自然の風も入るようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとし、廊下、トイレ、浴室等は手すりを付けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは大きく書き出し、居室には表札代わりに大きな名札又、自室への誘導を兼ねた 印、マスコット人形等を下げて目印としている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周に花壇を作っている。縁側には布団を干している。		畑を作っているので、入居者の方に水やり等して頂くよう計画を立てている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム大浜 あび

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活の中で利用者の意思及び人格を尊重し、家庭の延長として、その人らしい安心した生活が出来るよう支援していきます。利用者の体調管理及び下肢筋力をつける為リハビリ、立位訓練、散歩、体操等を取り入れています。空気が澄んで天候のよい日にはワン・ツーマンの対応の会話を交えての散歩もしています。季節行事として桜の下でのお花見、夏祭り、成寿園まつり、クリスマス、餅つき、お正月と盛りだくさんの催しをして利用者の方に喜んで頂けるよう取り組んでいます。